



研究テーマ：崎山多美研究

研究者： 淵上 千香子

FUCHIGAMI Chikako
(工学部 助教)

【研究・開発の目的】

現在では「実体ある他者（異文化）」に対する差別と排除のまなざしが強まっている。その差別と排除は不透明な存在であるはずの「他者」をカテゴリー化し、暴力的にイメージを付与し、名付け、「私」とは異質な者として切り離す。崎山多美（1954-）の小説を読むことは、分断された状況を問い直す行為であると言える。本研究は崎山の書いた小説全般を視野に入れ、崎山の作品において「私」と「他者」、およびその関係がどのように語られているのかを明らかにする。

【研究・開発の概要】

崎山多美は沖縄県西表島出身の作家である。崎山は、「私」をどのように語ることができるのか、ということを経験的課題とし、「沖縄」「女」をめぐる既存の物語との関係の中で物語を書きつづけている。ここでは「沖縄人の女」ではない不透明な「私」を問い続け、両者の関係のあり方が模索されている。本研究は、その崎山の物語行為の軌跡を明らかにすることを目的としている。

【研究・開発の特色】

崎山多美の作品は「沖縄文学」として読まれることが多い。しかし、「沖縄文学」として読むだけでは、崎山の作品の実態を掴みきれない。物語を書く行為に即して崎山の作家活動全体を跡づけていくことで、崎山の作品を「沖縄文学作家」という範疇を超えて論じている点が、本研究の大きな特色である。

【今後の展開や課題】

崎山多美は現代作家であるために、新作・近作が発表されている。今後は
(1) 崎山の語りに着目し、近作の細部に注意を払って読解を行うこと、
(2) その近作の物語行為を、崎山の物語行為全体に位置づけ、両者の関係を明らかにすることを、課題として、研究を展開させたいと考えている。

【地域・企業へのメッセージ】

研究している文学作品に関する社会的な考察や、授業を担当している学生の日本語文章表現能力向上を通して、地域・企業の皆様に成果を還元して参りたいと考えております。